

平成二十七年年度 大学院人文科学府修士課程第1期入学試験問題  
( 日本史学 )

次の一く八の設問から6問を選び解答しなさい。但し、解答は全て縦書きとすること。

一 左に掲げた史料に関する設問(一)く(三)に答えなさい。

凡<sub>レ</sub>戸籍六年一造。起<sub>二</sub>十一月上旬。依<sub>レ</sub>式勘造。里別爲<sub>レ</sub>卷。惣寫<sub>二</sub>三通。其縫<sub>一</sub>皆注<sub>二</sub>其國其郡其里其年籍。五月卅日內訖。一通申送<sub>二</sub>太政官。一通留<sub>レ</sub>國。其雜戶<sub>一</sub>。則更寫<sub>二</sub>一通。各送<sub>二</sub>本司。所<sub>レ</sub>湏<sub>一</sub>紙筆等調度。皆出<sub>二</sub>當戶。國司勘量所<sub>レ</sub>湏<sub>一</sub>多少。臨時斟酌。不得<sub>レ</sub>侵損。百姓。其籍至<sub>レ</sub>官。並<sub>レ</sub>即先納<sub>二</sub>後勘。有<sub>レ</sub>增減隱沒。不同。隨<sub>レ</sub>狀<sub>一</sub>下<sub>レ</sub>推。國承錯失。即於<sub>二</sub>省籍<sub>一</sub>具注事由。國亦注<sub>二</sub>帳籍<sub>一</sub>。

(一) 現行通用の字体を用いて書き下しなさい。

(二) 全文を現代語に訳しなさい。

(三) 波線を附した語句①く⑤を説明しなさい。

二 次の語句の中から6つを選び、それぞれを五行程度で説明しなさい。

- ① 平安遺文
- ② 和銅開珎
- ③ 広開土王(好太王)碑
- ④ 隼人
- ⑤ 負名
- ⑥ 新羅使
- ⑦ 大宝令
- ⑧ 関白
- ⑨ 難波宮

三 次の史料を読み、設問(一)～(四)に答えなさい。

諸商買船諸公事免許事、雖有望申族、自今以後不可申次之、若於有御免輩者、為上意可被仰出候也、仍壁書如件、

文明十九年三月二十九日

(連署者を省略)

(「大内氏掟書」一〇五条)

(一) 本文を書き下しなさい。

(二) 本文を解釈しなさい。

(三) この文書の「諸商買船諸公事」は、具体的にはどのようなものが考えられるか、記しなさい。

(四) この文書が出された意図について、考えるところを記しなさい。

四 次の語句を説明しなさい。

① 問丸

② 国人領主

③ 明応の政変

④ 石山本願寺

⑤ 猿樂

五 次の史料は、近藤重蔵編『憲教類典』（国立公文書館所蔵）からの抜粋である。これを読み、設問（一）（五）に答えなさい。なお、出題にあたり、原文にはない読点を適宜施した。また、慶長一三年は、西暦一六〇八年である。

慶長十三戊申年阿蘭陀人平戸に着船して通商を願ける故、御免ありて、御朱印下さる  
権現様、御朱印之写

阿蘭陀船日本江渡海之時、何之浦ニ雖為着岸不可相違候、向後守此旨無異義可致往来、  
聊疎意有間敷也、仍如此

慶長十四年七月廿五日

チャクスクルウンヘイケ

（一）史料の編者近藤重蔵について説明しなさい。

（二）史料中の二重傍線部「権現様」は徳川家康のことである。家康は、なぜ「権現様」と称されるのか、その理由を記しなさい。

（三）史料中の「チャクスクルウンヘイケ」とは、どのような立場の人物と推測されるか。その推測されるところを述べなさい。

（四）「阿蘭陀船日本江渡海之時、何之浦ニ雖為着岸不可相違候、向後守此旨無異義可致往来、聊疎意有間敷也、仍如此」の部分<sup>（一）</sup>を正確に解釈しなさい。

（五）史料中にある「御朱印」が発給された背景とその意義について論じなさい。

六 日本近世史に関する次の語句を説明しなさい。

- ① 柳沢吉保
- ② 助郷
- ③ 土免法
- ④ 安政の大獄

七 次の史料を読んで、設問(一)～(五)に答えなさい。

貴書敬読。(中略)大隈辞表提出は、既に去月二十九日拜謁の節に親しく事情奏聞と同時に差出候哉に慥なる処より承候。其遅速は兎も角も、首相は大隈と進退を共にすると明言の暁、訣別と云に至ては、小子眼光当初より透徹する処に不違、岩崎果して何等の感覚を抱持する乎と不堪想像候。昨來の風雨去留共不自由、両三日は尚此地に無聊を忍び候外無之候。世外痛処愈快復確なるに於ては、漫遊と出懸候事如何可有之乎と推敲中に御座候。いづれ大磯へ帰宅候節は以飛電御通信に可及候間、異状有之節は当地へ御通知可被下候。匆々拜具  
十一月六日

博文

晨亭大兄座右

自由党等平素余が冷淡とか何とか不満足を鳴らす輩、現政府と進歩党と離別の情状を比較せず何等の感ある乎。去就は実に軽忽にすべからざるを彼輩中含味するものありや否。

(一) この史料が何年に書かれたものかを推定するには、どのような作業をすればよいのか。できるだけ具体的に説明しなさい。

(二) (一)の作業の結果、この史料は明治三〇年(一八九七年)に書かれたことが分かった。傍線部「首相」の姓名を記しなさい。

(三) 波線部「大隈辞表提出は、既に去月二十九日拜謁の節に親しく事情奏聞と同時に差出候哉に慥なる処より承候。」について、必要に応じて言葉を補いながら、現代語訳せよ。

(四) 二重傍線部「自由党」「進歩党」について、この史料が書かれた時点から明治三三年までの推移について、知るところを記しなさい。

(五) この史料を用いてあなたが研究を行うと仮定する。①研究題目、②使用史料、③関連する先行研究、④研究の意義について必ず触れながら、自由に論じなさい。

八 次の①～⑥の語句のうち4つを選び、詳しく説明しなさい。

- ① 新政反対一揆
- ② 内大臣
- ③ 『中央公論』
- ④ 高橋財政
- ⑤ 所得倍増計画
- ⑥ 小津安二郎